

南丹におひさま発電所

自然派カフェに設置 亀岡以北で初



カフェの屋根に設置された太陽光発電パネル(南丹市美山町内久保)

環境学習の拠点となる太陽光発電設備「おひさま発電所」の設置を府内で進めているNPO法人(特定非営利活動法人)「きょうとグリーンファンド」(事務局・京都市下京区)が、南丹市美

山町内久保のカフェ「アースガーデン」と連携し、同設備をこのほど同カフェに完成した。亀岡市以北で同発電所の開設は初めてで、環境問題に関する情報発信の場としても活用する。



「おひさま発電所」の電気での点灯式を行う植月さん

NPOと連携 環境問題の情報も発信

カフェの建物の屋根に2100㎡型の太陽光発電パネル24枚(約40平方メートル)を並べた。最大5・04誌発電でき、余剰電力を電力会社に売る設備もある。店内には、現在の発電量と1日分の積算発電量、CO₂(二酸化炭素)排出削減量を数字で表示する看板も付けた。費用約500万円のうち半額は日本郵便の年賀寄付金助成でまかない、残りは同法人の基金やカフェの資金などを充てた。

同法人は2001年から京都市や城陽市の保育園、幼稚園など12施設に同設備を設置。13番目となった同カフェは、自家製の有機栽培野菜を料理に使ったり、雨水タンクやまきストープを設置するなど、持続可能な暮らし方の事例となる施設を目指しているという。

このほど関係者を招いて点灯式を行った。カフェを夫と経営する植月千砂さん(59)と同法人理事長の板倉豊京都精華大学教授(61)は「単にクリーンエネルギーを作るだけでなく、多くの人がおひさま発電所に興味を持ってくれるように、環境問題の情報を発信していきたい」と話している。(井上年央)